

1 「潜伏キリシタンの物語を漫画化する: 史実と伝承」

日時: 2025 年 3 月 17 日

会場: 教皇庁立グレゴリアン大学



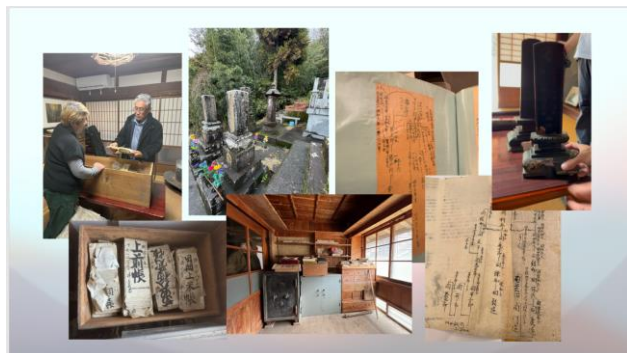
高浜寛さんは、江戸末期から明治にかけての長崎を舞台に描いた、「長崎三部作」とされる作品などで知られていますが、これらの作品は通常、「歴史漫画」と分類されます。

この日の講演で高浜さんは、まず、「歴史漫画」とは何かを説明した上で、現在、連載中の作品『獅子と牡丹』のために行っている独自の調査研究について紹介しました。

「歴史漫画」とは、歴史上の實在の人物を扱いつつ、作者が自由に解釈を加えたもので、「学習漫画」とは区別されます。後者は、フィクションを加えず教材として制作されるものである一方、「歴史漫画」は、基本的には史実に基づき制作されますが、作者が史実と創作を織り交ぜたエンターテインメントである点が異なります。

現在執筆中の『獅子と牡丹』には、準備に多くの時間を割かれていますが、その内容は大変興味深いものです。

「潜伏キリシタン」、すなわち、2 世紀以上の間、禁じられていたにも関わらず秘のうちに信仰を守り続けたキリシタンらの歴史は、文書としての記録がなく、そのほとんどが口承に限られています。果たしてどこまで調査ができるのか、高浜さんは、初めは半信半疑のまま、天草市内で民家を訪ねて回ったところ、さまざまな「証拠」



がいまだに多く伝えられていることを確認しました。また、そうした多くの家族が、想像とは裏腹に、

彼らの先祖についての伝承や遺物を、心よく紹介くださったと言います。彼らは、もはや語り継ぐ相手もなく、風前の灯となりつつある「歴史」を、誰かと共有したい、どうにか後世に残したいという思いを抱えていました。



高浜さんはここで、一枚の大きな紙を取り出しました。これまでに調査し、史料を整理していく中の1つとして、作成した関連図で、フランシスコ・ザビエルが日本に到達し、布教を始めた頃から禁教時代までの国内外の人物の関わりを記入していったものです。最初は A3 用紙を何枚か貼り合わせていたものが、いつのまにかここまでの大きさになったそうです。

遺物の調査もまた、容易ではありません。禁教の下、信者らは聖母子像の代わりに、代官の目を逃れて観音像などを使用していましたが、骨董市場では、いわゆる「聖母観音像」をはじめとするさまざまな偽物も出回っています。

史実というものが、もし、歴史は文書や考古学遺跡のみにより構成されるものであるとするならば、口承による伝承のみが全てで、文書による記録が残らない潜伏キリシタンらを描いた漫画『獅子と牡丹』は、正確には、「歴史漫画」とは呼べないのかもしれませんが。であればこれは、新しい「創作漫画」の1つにあたるのでしょうか。それでも、口承を集め、「漫画」という形にまとめるということそれ自体が、散逸し失われつつある多くの言葉の記録となり、次の世代へと繋ぐ手段となります。

調査内容や整理した資料も、いずれはデジタル化して公開し、将来的に他の研究者らにも利用していただけるようにしたいとのこと、さらなる多角的な研究が進むよう、期待します。

(第2日目に続く)